

読んで
ください

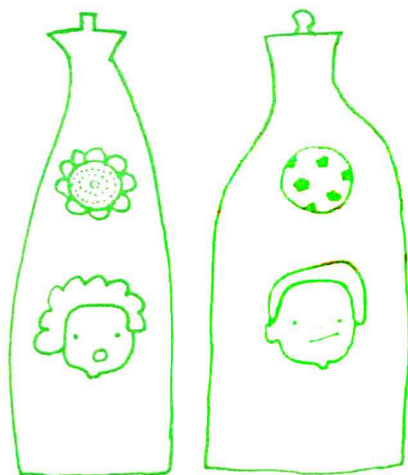
■ おとうさん

日本作文の会編



読んで—
ください—1 おとうさん

日本作文の会編



あすなろ書房

読んで
ください おとうさん



編集委員

今井 誉次郎	江口 季好
* 遠藤 豊吉	太田 昭臣
大塚 達男	小沢 勲
乙部 武志	* 亀村 五郎
* 国分一太郎	後藤彦十郎
寒川 道夫	鈴木喜代春
志摩 陽伍	田倉 圭市
田嶋 定雄	* 田宮 輝夫
土岐 兼房	滑川 道夫
* 野口 茂夫	無着 成恭
綿田 三郎	綿引 まさ

* 印はこの巻の実務担当者

読んで
ください おとうさん

1971年7月20日 初版印刷
1971年7月30日 初版発行 定価 590円

編者 日本作文の会
東京都文京区本郷2丁目18-9
発行者 山 浦 常 克
印刷者 白 田 泰 雄

発行所 株式会社 あすなろ書房
東京都千代田区五番町 10-6
電話 (261) 0346 振替東京 63084

佐久印刷・越後堂製本

日本のおとうさんへ

読んでください

こんなつもりでわたしはこの本をつくりました。父親に関して日本じ

・おとうさん

ゆうの子どもがかいた散文や詩。それがたまりにたまりました。山ほどあ

るといってよいようになりました。それを教師という職業仲間だけで読むのは、もったいないのです。おおっぴらにでも、こっそりとも、おとうさん自身に、これは読んでもらいたいのです。読んで何かを考え感じてほしいのです。それから、何かをしてほしいのです。子どもたちのために、そのあすからのために。

拝啓・おとうちゃん、おやじどの

こんなつもりもわたしにはあります。しかし、はやりにとって、わざわざ、こんなふうにかかせたものはありません。山ほどたまったものなの

かには、ひとりでに、こうなっているものもあるようです。子どもに不満もねがいもあるのですね。ひとりだちしていくものの批判があるのですね。

わかってるんです

こういいたい気持ちもわたしにはあります。そのしょうこには、これ

よ。おとうさん

らをごらんください。と、みんなが持っている、あなたのむすこさん・むす

めさんの作品を、ここにさしだしたというわけです。親の気持ちをわかってくれない、断絶の時代がやってきました。こうおっしゃるおとうさん、あきらめるようなおとうさん。こんなかたもあるようです。けれども、むすこさん、むすめさんは、あんがいわかっているんですよ。「わかれ、わかれ」といわないで、事実や行為を、その前にしめしてやりさえすれば。

子どものレンズの この本に、こういう題名もつけたいとおもいました。そして、子どもの目なかのおとうさん っていうものはよく見えるものですね、こうも叫びたくなりました。いや教師仲間では、とつくから、そういういいあっているんですよ。でもこれは、子どもの作品をのぞきめがねにして、みなさんのことをのぞき見して、ひとり興がっているではありません。

おとうさんのからだのことはもちろん、そのすることについて、こんなによく見るようになってお子さん。のびていくものに、一日一日とくわわっていく目のかがやき。それを、日本の父親ご本人にも、ぜひ見ていただきたいのです。おせっかいなことでしょうか。いらざることと、気にさわりましたら、のびていくものをよろこんでながめる教師たちの感傷ぐせとして、どうかおゆるしてください。

よく考えています こうもわたしたちはいいたいのです。いまの世の中、いまのお仕事でくろね。おとうさん うしていること、家のくらしのことで、がんばっていること。そういうことについて、よくかんがえているのですね。でも、これについては、ここではあんまりかきません。どうか本文にあたってお考えください。なかには、子どもだから、あさく、せまい考え

のものもありますし、一直線的なものもありますね。でもその一直線がまっすぐで、こちらが舌をまくということもある。教師仲間ではこうもいいあっているのです。

おとうさん　山とあるものから、ほんの一部をとりあげましたので、こんどですべてとはいのすべて　えません。でも、日本のおとうさんたちがおのぞみでしたら、わたしたちは、

もっともっととたくさんのこういう本をつくりましょう。

一九七一年七月

日本作文の会

■ も く じ ■

日本のおとうさんへ

おとうさんといっしょ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

おとうさん／とうちゃん／おとうちゃんのいびき
／おふろ／あたらしいシャツ／石つみ／キャッチ
ボール／わたしのとうさん／おとうさん／大すき
なおとうさん／おとうさん／おとうさんとわたし
／魚がしの見学／土くだき／おとうさんとこやさ
ん／おとうさん／とうちゃん／父とプロレス／お
とうさんの手／おとうさんのタバコのいみは／お
とうさん／うでずもう／本とおとうさん

おとうさん、ほら、もっと飲んでいけよ・・・・・・・・・・・・55

おとうさんとお酒／父／お酒／おとうさんのうそ
つき／おとうさん／よっぱらったおとうちゃん／
よっぱらったおとうさん／おとうさん

てのひらの仕事だこ……………73

父／おとうさん／おとうさんはきかんし／おとうち
やんのにおい／しごとだこ／おとうさんのしごと
／とうちゃんの仕事／木を切る父／とうちゃんの
くつした／ざいもくはこび／おとうさんの仕事／
石屋／働く父の手／かわいそうなおとうさん／父
の手／ぞうせん所のおとうさん／木だし／とうち
やんの「まぶしごせえの歌」／はたらくおとうさ
ん／父／おとうさん

母はだまって 父のふとんをしいた……………121

母はだまって父のふとんをしいた／おとうさんと

おかあさん／とうちゃん見送り／ふうふげんか／
木のくず／とうちゃんとかあちゃん／夫婦／おと
うさんとおかあさん

おとうさんをクビにした 会社がにくい……………139

かわいそうなとうちゃん／おとうさんのかえり／
家を見るおとうさん／おとうちゃんの仕事／田畑
と父／とうちゃん／消毒機／とうちゃんのしょく
ば／倒産／父と生活／父とわたし／おとうさんの
仕事／イカつりの父／とうさん／父の肩

とうちゃんの顔が見えてくる……………179

とうちゃんの顔が見えてくる／とうちゃんのかぜ
／退院してきたおとうさん／おとうさん

とうちゃん 今ごろ 何してるだろう……………201

とうきょうのおとうさん／とうちゃん今ごろ何し
てるだろう／とうちゃん／別れ／おとうさんさよ
うなら／パパのこと／出かせぎのとうちゃん／ほ
くは心配だ／出かせぎとうちゃん／とうちゃん／
おとうさん／おとうさんの出かせぎ／おとうさん
の手紙／おとうさんのおい／炭焼きの思い出

おとうちゃん きょう 三コ ウンをついたね……………223

おとうちゃんのおそつき／夜／テスト／家族会議
／おとうさんのたばこ／おとうさん／父／ぜった
いかってほしいもの／おとうさん／大きらい

おれんちのおやじ……………251

おとうさん／おれんちのおやじ／とうちゃんはど
かた／とうちゃんのきんにく／おとうさん／うち
のおとうさん／父の職業

大工になった理由……………271

大工になった理由／わたしのおとうさんの子ども
のころ

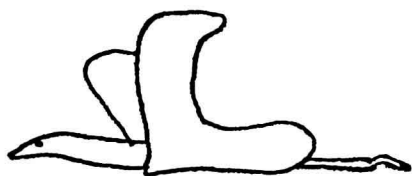
おとうさんのウナギとり……………277

おとうさん／おとうさん／おとうさんのウナギと
り／父よりも先へ歩いてきた遠い道／つりずき

そうてい 岡村紀子
カット 熊谷博人

おとうさんといっしょ

—— 大すきなおとうさん ——



おとうさん

パーマやさんで、

パパは、おさけをのんだ。

「パパ、もう帰りましょ。」

とママがいった。

帰り道で、おとうさんが、

「あ、えらやっちゃ えらやっちゃ

さけのむあほうに

くうあほう

あ、えらやっちゃ えらやっちゃ。」

とうたったので、ぼくは、

「あ、ほいほい。」

と、かけ声をかけた。

だれも歩いていない夜道に

その声がひびいた。

東京・小学三年
根岸幹彦

風がふいて、いい気持ちだった。

草も

フザザー、フザザー

と音をなびかせていた。

とうちゃん

山形・小学六年 国分信三

農休日のひ、とうちゃんはよっぱらってきて、ふとんにねていた。

ぼくは、とうちゃんを見ていたら、

なんとなく、とうちゃんのわきに ねてみたくなった。

それで、とうちゃんがおきないように

そっと、そっとふとんにはいつていった。

そして、めずらしくもない自分の家の中のものを

じろじろ見ていた。

あと、見るところのないところまで見たら、

こんどは、なんとなくとうちゃんの顔が見たくなった。

ぼくは、ごそごとあたまをあげたら、
とうちゃんは、なにかもぐもぐいって、
せなかをみせてしまった。

ぼくは、うしろすがたでもいいから、見ようと思った。

くびは、日にやけてまっくろ。

それに、しわが二、三本。

かみは、ごみだらけで、

耳は、くされたような赤色だ。

これでも、かあちゃんの話を書いたのだが、

若いときのとうちゃんは

なかなかの、いろ男だったそうだ。

おとうちゃんのいびき

山梨・小学一年 中川よしお

よる、おとうちゃんが、こたつにあたっておもったら、
すごい大きいいびきをかきはじめる

した。

ぼくは、そばにあって、おとうちゃんのいびきを、かんさつしました。

大きい口をあいて、いきをすいこむときに、ゴゴゴゴといって、はくときには、ガアと、ものすごいいきおいです。

ぼくはおかしくなって、おとうちゃんのはなを、ちよつとつまんだら、くびをふって、目をあきました。

「おとうちゃんは、大きいいびきをかくねえ。」

「うん、じぶんのいびきで、目がさめることがある。」

ぼくは、そんなことがあるかなあと、びっくりしました。

おふろ

大阪・小学一年 楠瀬順子

わたしは、おとうさんといっしょに、おふろにはいりました。

おとうさんが、さきに、ゆにつかりました。

わたしも、手や足やおなかや、どこもみなあらってはいりました。

おとうさんは、からだが大きいので、わたしはせまいきゆうくつなところにはいります。

かたまでぬくもられるけど、せまくるしいです。

おとうさんのからだにさわると、ごつごつしています。

おとうさんが出ると、おゆがいっぺんにすくなくります。そして、ひろくなります。わたしは足も手ものばします。

わたしは、おとうさんとはいるのが好きです。おとうさんといっしょにはいると、いつも、からだをあらってもらいいます。そして、ながしてもらいます。

かおは、自分であらうけど、タオルでふくときも、ふいてももらいます。

おとうさんのせなかを手でさわると、おとうさんは、こそばい、といってわらいます。また、おとうさんがゆにはいります。ゆがふえて、おふろがせまくなります。

あたらしい シャツ

長野・小学一年 おおい かつよし

せんせえー

ぼくの ようふくみて

まだ しょうふだがついているよ、

とうちゃんか